

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり
vol.
194
2021.5
学びから行動へ、行動から学びへの循環



鳥取大学の学生がキャンプカウンセラーとして活躍

特集

子どもと大学生が ともに成長する場

青少年育成団体ポレポレキッズ☆

- 04 私たちの活動をご紹介します！
成徳地区玉川を美しくする会(倉吉市)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(5・6月)
- 23 社会教育・生涯学習担当者紹介(南部町)
- 24 文部科学大臣表彰
社会教育功労者・第73回優良公民館
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとるで～



竹のジャングルジム、田んぼ遊び、磯観察など外で思いっきり遊びます！

子どもと大学生がともに成長する場

～青少年育成団体ポレポレキッズ☆～

「子どもたちの健やかな成長」、「大学生の自己啓発」、「地域貢献」の3つを理念に掲げ、鳥取大学の学生が主体となって自然を肌で感じる活動を企画運営する「青少年育成団体ポレポレキッズ☆」。責任者の三村清みむらきよしさんに、活動についてお話を伺いました。

活動の中心は、鳥取大学の学生

青少年育成団体ポレポレキッズ☆（以下、「ポレポレキッズ」という）は、子どもたちによりよい成長の場を提供したいと平成13年4月に設立されました。設立の中心人物は、県外で自然体験活動を実践してきた三村さんの友人です。子どもたちとの関わりには大学生の力が必要と考えた友人が、鳥取大学の学生にポレポレキッズの活動への参加を呼びかけました。

当時、鳥取大学の大学院で教育について学んでいた三村さんも声をかけられ活動に参加することに。「何か子どもと関わることにチャレンジしたいと思っていたところ、ちょうど声がかかって」と振り返ります。

子どもたちを預かっての野外活動は、責任を伴います。そのため、活動理念や活動をする際に気をつけることなどを会則として定め、自分たちの考えを明確にした上で子どもたちと関わり続けてきました。

キーワードは「ダイナミック」

ポレポレキッズはキャンプカウンセラーと呼ばれる鳥取大学の学生を中心としたボランティアスタッフで構成されています。キャンプカウンセラーは、野外活動を企画運営し主体的に子どもたちと関わります。

活動への参加を希望する子どもとその保護者は、「遊遊ひろばを楽しむ会」^{※(1)}の会員になることで、ポレポレキッズが企画運営する「遊遊ひろば」^{※(2)}と名付けられた野外活動に参加することができます。現在、「遊遊ひろばを楽しむ会」の会員となっている子どもは、就学前の年長児から中学3年生までの約40名。「遊遊ひろば」は、年に10回程度開催され、毎回約40名の子どもと約20名の学生が参加します。別の学校の子もたちとの出会いや異年齢で遊ぶ機会があり、子どもたちにとって貴重な体験活動の場となっています。

ポレポレキッズの活動は、一言でいうとダイナミックな活動です。「鳥取で生まれ育っても、ス

キーや雪遊び、海水浴をしたことがない子どももたくさんいて。子どもたちに何か非日常的な体験をさせたいという思いから、磯観察や登山、キャンプ、スキーといったダイナミックな野外活動を取り入れてきました」と三村さん。

研修を重ね、スキルアップ

スタッフは野外活動に必要な知識や救急救命講習などの研修を定期的に行き、子どもたちが楽しく安全に参加するための知識や技術を学び、互いに高め合っています。救急救命の講師は消防士に依頼しますが、基本的に研修の先生役は三村さんを含めたディレクターと呼ばれる大人のスタッフ5名。ディレクターは体験活動や子どもの発達に精通しており、子どもの特性や個性、年齢による違い、子どもたちとの関わり方等についてキャンプカウンセラーに伝えます。

研修と毎月の定例会は、主に鳥取市湖山にある鳥取市立湖山西地区公民館で行われます。地域に根差した取組もしたいという思いから、ポレポレキッズとして地域の子どもたちに勉強を教えたり清掃活動へ参加したりするなど、湖山西地区公民館の事業にも協力しています。

受け止めてもらえているという安心感

「子どもたちはとても生き生きしている」と三村さん。「自分のやりたいことや興味のあることを、時間やルールに縛られず自然の中でトコトンできることが、子どもたちが生き生きする姿につながっているのだと思います。年齢が近いお兄さんお姉さんが支えてくれる、一緒に楽しんでくれるというのがやっぱりいいのかな」とほほ笑みます。「学生にはわがままも言えますし、子どもたちにとって自分が受け止めてもらえているという安心感があるんですね。学生は未熟なところもたくさんありますが、そこが強みだと思っています」。



救急救命講習の様子



雨の日は室内で活動します！

活動によって大きく成長する学生も。子どもが好んでキャンプカウンセラーになる学生ばかりではなく、中には人とコミュニケーションをとるのがあまり得意ではない学生もいて、そういう学生が変わっていく姿もたくさん見てきました。「自己紹介で声も出せなかったのが、4年生になるころには子どもたちの前で堂々と司会をしたり、全体を仕切ったりできるようになっているんですよ」とうれしそう。

これからのこと

活動を始めて20年が経過。最近では、ダイナミックからゆるやかな活動へと変わってきています。

「子どもの頃の鳥取での自然の中での原体験が、ふるさとを大事にする心を育てる」という想いで活動を続けてきたポレポレキッズ。「これからは、地域に根差したことにも少しずつ力を入れたい」と今後の目標を話します。

子どもの成長を見守りながら、学生と子どもが共に成長できる場を創るという理念はこれからも変わることはありません。

※(1)「遊遊ひろばを楽しむ会」は、保護者相互の責任の下、ポレポレキッズと協力して、子どもたちが野外活動を楽しめる「遊遊ひろば」を開催。

※(2)「遊遊ひろば」は、「遊遊ひろばを楽しむ会」と「ポレポレキッズ」が共催で行う、会員制の野外活動プログラム。

20年もの間続けることができたコツは？

三村さん曰く、自分がやりたいことを続けてきたら20年経っていたという感じ。子どもと関わることが好きなんです、何と云うか、子どもが楽しんでいて生き生きとしている姿、学生の成長する姿を見るのが好きなんです。それと、仕事と家庭とは別に自分を生かすことができる場があるのはすごく人生を楽しめていると感じていて、自分にとってもこの活動が居場所になっている気がします。

キャンプカウンセラーにインタビュー

活動してきてよかったこと、活動によって自分が成長したところを教えてください。



まつもり はるか
松森 晴加 さん

キャンプネーム しなすつぽん

活動をとおして、子どもたちとの関わり方の幅を広げることができ、心地良い居場所作りを学ぶことができました。野外活動の中で子どもたちの成長を感じることができ

点、その成長に関われる点がこの活動に携わる魅力の一つでもあり、かけがえのない経験・体験です。



はた かずき
畑 和輝 さん

キャンプネーム おしよろこま

最も楽しんでいたことは、イベントの企画です。活動では、大学生が主体となってイベントを企画することができます。自分たちで作り上げたそのイベントで子どもたちが笑顔を見せてくれるのが何より嬉しかったです。この時の感動が印象深く、活動にのめり込むきっかけになりました。

なかがわ ももか
中川 桃花 さん

キャンプネーム へいへい

活動の楽しさは「多くの方との出会いで自分の可能性が広がること」です。活動に参加する中で、様々な年代の方々とお会いする機会があり、新しい出会いの度に自分の考えの幅が広がったり、今までの考えが変わる瞬間がありました。その経験が自分の可能性を広げ、今の自分を作っていると感じています。



まつもと あきひさ
松本 陽央 さん

キャンプネーム ナイン

4年間をとおして子どもたちの成長の場に直接関わる中で、子ども一人ひとりに真剣に向き合うことの大切さと難しさを知ることができました。また、プログラムをとおして異年齢の子ども同士や大学生との新たな繋がりを作ることができ、人と人、地域と人とを繋いでいくことのできる魅力があります。



今では、「ポレポレキッズ」は鳥取大学のサークルとして登録され、毎年新入部員が入ってきます。

「ポレポレ」の意味は？

スワヒリ語で「ゆっくりゆっくり」という意味。子どもたちの成長を見守り、子どもたちと一緒にゆっくりゆっくり成長していければいいなという想いが込められています。団体のマークは「亀」。



湖山西地区公民館職員からのメッセージ



公民館事業「夏休み子ども広場 宿題おたすけ隊」で学生から宿題を教わる子どもたち (2018. 8)

ポレポレキッズのみなさんには、地域のイベントに積極的に参加していただき、地域のみなさんとの交流・親睦をはかっていただいています。大学生のみなさんにいろいろな活動に参加していただき、とても感謝しています。これからも、心豊かな子どもたちを地域全体で育てていくためにも、引き続き公民館事業への協力をお願いいたします。

お気軽に
ご連絡ください

「遊遊ひろばを楽しむ会」会員 随時受付中！

連絡先：yuyuhiroba@gmail.com

青少年育成団体ポレポレキッズ☆

ホームページ：https://polepolekids.com/
フェイスブック：http://www.facebook.com/star.polepolekids

私たちの活動を紹介します

倉吉市

成徳地区玉川を美しくする会

寄稿：会長 倉恒 俊一さん

<連絡先> TEL 0858-22-1301

(成徳コミュニティセンター)

<設立年> 昭和54年3月

<構成> 理事57名ほか、成徳地区住民、
倉吉市立成徳小学校、倉吉市立東中学校



学生も一緒に清掃活動をしします。

主な活動は、環境美化の推進と啓発

私たちは年6回、倉吉市成徳地区の住民で集まり、早朝1時間程度、河川内の清掃をしています。河川の主なゴミは、タバコの吸殻、瓶、缶、プラスチックですが、傘やタイヤもあります。

市街地の中心を東西に流れる玉川は全長約4.7kmで、小鴨川と繋がります。昭和50年前半頃の玉川は異臭漂う川でしたが、公共下水道の普及もあって水質が改善され、小魚、小鳥も見られるほどきれいになりました。

会発足前から美化活動をされていた先輩方の活動理念が現在まで続いており、蘇った玉川は、倉吉市の観光事業にも貢献しています。



地区の方の協力もあり、玉川を美しく保っています。



(写真提供：成徳地区玉川を美しくする会)

清掃活動では頭を悩ませることも…

成徳地区の高齢化率は令和3年1月の時点で約40%になりました。玉川の水深は20cm前後ですが、底は泥と玉石で足元を動かすのは大変です。また、水の流れも見た目より速く、高齢者は体勢が不安定になりやすいため、川に入っただけの清掃活動は危険が伴います。

ただ、嬉しいことに、3年ほど前から小学生、中学生が地域関連の授業の一環として玉川の1.4km間の清掃活動に参加してくれるようになりました。この体験により、環境問題に生徒たちが少しでも関心を持ってくれることを望んでいます。

活動をとおり町史を振り返る

活動を続ける中で、玉川は人工河川であることがわかりました。江戸後期の倉吉絵図に、玉川は現在の形状で描かれています。詳しく調査をすると白壁土蔵群に沿って架かる石橋の形状は、全国でも倉吉だけに見られ、護岸左右の石積みも異なるのも珍しいです。誰が指揮して河川整備を行ったか、整備の目的は何か、玉川の呼称はいつからかなど詳しい事は分かっていません。室町時代の小さな集落から発展してきた町を調べることで、幾つもの謎解きが始まるのだと思います。

歴史を含めて生徒たちに伝えることで、将来この地に住み続けるきっかけになればと考えています。

令和3年度の清掃予定

4月から9月の第3日曜日(全6回)
(早朝6:50から7:40まで)

